# 特定非営利活動法人 移動支援 Rera

# 2016 年度　事業報告書

2016 年 4 月 1 日～2017 年 3 月 31 日

«事業報告書概要»


０．　団体概要　……2

Ⅰ．　移動困難な住民の送迎支援活動　……3

Ⅱ．　福祉有償運送事業　……6

Ⅲ．　情報収集・調査・情報発信事業　……6

Ⅳ．　住民同士の交流・親睦事業　……14

Ⅴ．　その他の事業　……14

Ⅵ．　運営に関する報告　……16


移動支援 Rera

# 団体概要

【特定非営利活動法人移動支援 Rera　定款第 3 条】
この法人は、移動困難な住民に対して、送迎活動等のサポート事業を行うことにより、生活する上で必要不可欠な移動手段を確保し、彼らの健全な生活の維持に寄与することを目的とする。

## 団体のあゆみ

| | | |
|---|---|---|
| 2011 年 | 3 月 11 日 | 東日本大震災発災 |
| | 3 月 15 日 | NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センターが宮城県石巻市入り<br>被災障害者の支援を行いつつ瓦礫撤去、避難所設営、物資整理等に協力。 |
| | 4 月 8 日 | 現地支援活動団体名を『災害移動支援ボランティア Rera』と決定<br>活動内容を「移動困難な被災住民の送迎」に集中させる。 |
| 2012 年 | 4 月 1 日 | 運営主体が石巻地区の住民ボランティアに移行<br>行政・民間連携による『石巻地区災害移動支援連絡会』開催（～翌年 3 月） |
| 2013 年 | 2 月 15 日 | 宮城県認証の『NPO 法人移動支援 Rera』設立<br>助成金・補助金・寄付金・協力費等を活動資金に、移動支援活動を継続。 |

◆活動開始から 2017 年 3 月末までのデータ

累積送迎人数……124,280 名

送迎名簿登録者数……1,548 名

レラメイト登録者数…296 名（1 月～）

車両総走行距離（計算値）…約 139 万 km

（地球約 34 周半）

## 主な活動内容

- 宮城県石巻地域を中心に、病気や高齢、障害等の様々な理由で自力での外出手段を持たない住民のために、地域住民が中心となり少ない利用者負担で利用できる送迎をおこなうことにより、通院や買い物等の外出手段を確保し、心身の健康維持や介護度悪化の防止、生きがいづくりを促進する。
- 公共交通機関の利用案内等、ボランティア送迎利用以外の外出手段の利用促進。
- 地域住民や支援者に向けた福祉送迎講習会を開催し、地域に送迎活動の担い手を増やす。

# 事業報告

## Ⅰ．　移動困難な住民の送迎支援活動

### 1．活動概要

- ◆ 2011 年の任意団体結成時より主要事業として行ってきた送迎活動を、2016 年度も継続して安定的に行うことができた。
- ◆ 送迎対象者…公共交通による移動が困難で、家族などが送迎できず、高額の交通費の支払いが経済的に困難な住民。
- ◆ 送迎範囲…石巻市・東松島市・女川町の住民。送迎の利用上限は基本的に週 2 回まで。
- ◆ 送迎形態…道路運送法上「登録を要さない」無償の範囲内として、送迎にかかる実費分以下、2km ごとに 100 円を『協力費』として利用者にお願いした。
- ◆ 車両 8 台（うち 6 台福祉車両）を使用。
- ◆ 利用希望者は『同意書』『申告書』を団体へ提出。団体は名簿登録して管理。
- ◆ 2017 年 1 月より、新たな送迎利用者との支え合いの仕組み『レラメイト』を開始した。

### 2．活動実績

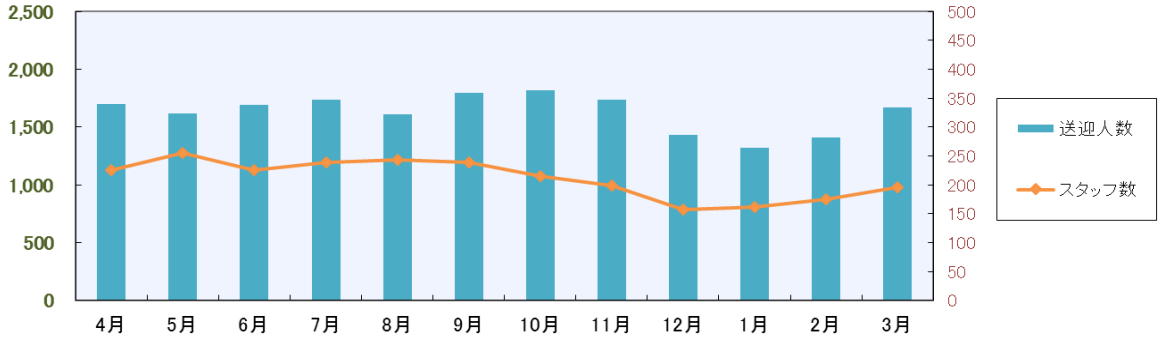
《実施期間》

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日（事業期間内の全日）のうち、日曜、元日、研修を除く毎日。（年末年始、お盆、ゴールデンウィーク期間は一部透析送迎のみ。）

《実施内容》

## 移動支援Rera　2016(平成28)年度送迎集計

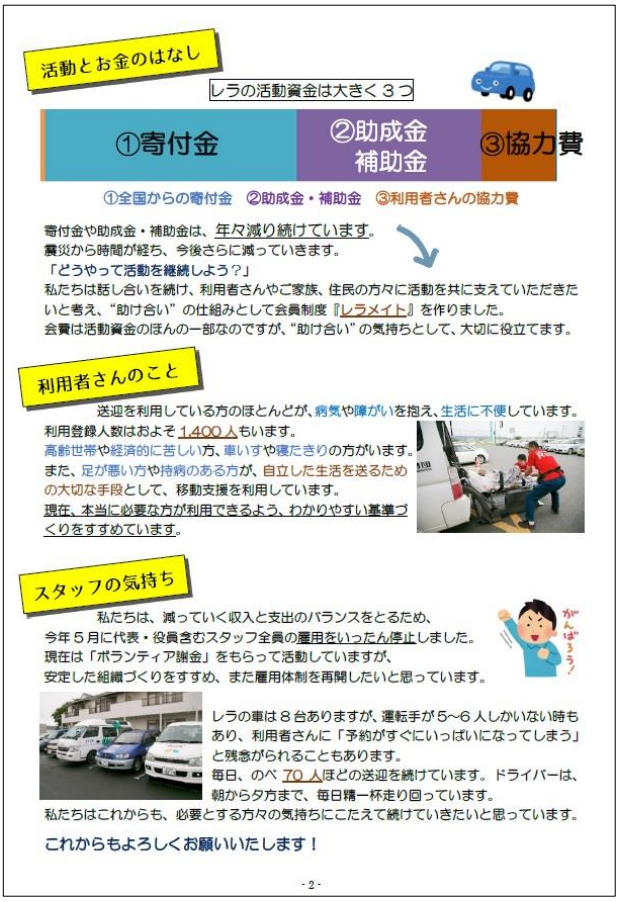
| | 28年 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 29年 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 月平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 送迎人数 | 1,699 | 1,616 | 1,688 | 1,738 | 1,606 | 1,797 | 1,820 | 1,735 | 1,432 | 1,318 | 1,406 | 1,665 | 19,520 | 1,627 |
| 送迎回数 | 1,396 | 1,330 | 1,431 | 1,467 | 1,361 | 1,502 | 1,512 | 1,411 | 1,160 | 1,071 | 1,176 | 1,385 | 16,202 | 1,350 |
| スタッフ数 | 225 | 255 | 226 | 239 | 243 | 238 | 215 | 198 | 157 | 161 | 175 | 196 | 2,528 | 211 |




◆　年間合計のべ 19,520 名、月平均 1,627 名の送迎を行った。

◆　12 月以降のスタッフ不足（稼働車両減少）と連動してのべ送迎人数が一時落ち込んだが、県外ボランティアや新規スタッフ参加等により再び増加傾向となった。

◆　当年度より新たな利用者と団体の支え合いの仕組み『**レラメイト**』を開始した。



『**レラメイト**』…第一期（1 月～6 月）、第二期（7 月～12 月）　半年ごとに更新。

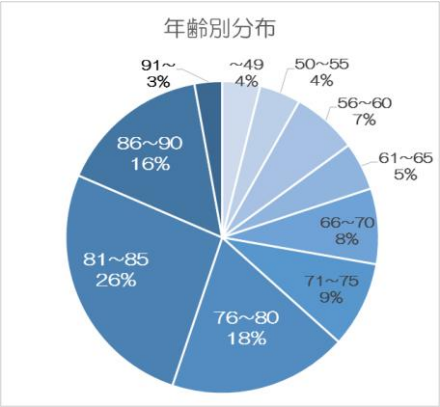
2017 年 1 月～3 月の登録者数…296 名

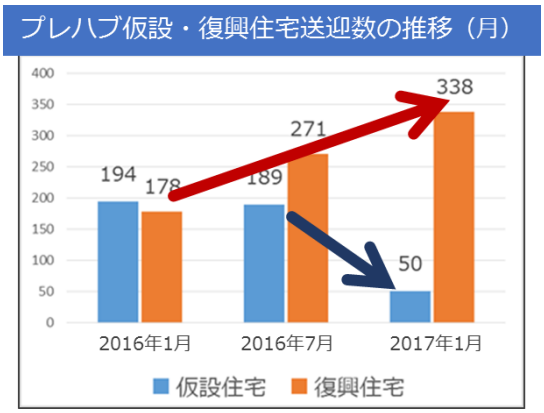
当団体による送迎、付き添い・介助付きのお出かけイベント、生活支援等のサービスを受ける利用者が対象。活動を支えるための会費として半年ごとに 2,000 円の協力をお願いする仕組み。2016 年度始めより、理事会やスタッフミーティングで検討を重ね、シミュレーションを行い、スタッフ自身の仕組みへの理解を十分深めた後、2017 年 1 月より実施した。

利用者には案内ちらしを渡し、送迎スタッフが口頭で説明して状況を理解していただき、ほとんどの方が非常に好意的に賛同した。

◆ 利用登録者数は 1,500 名以上だが、現在は利用していない人も含まれているため、『レラメイト』登録利用者（3 月下旬時点 281 名）のデータにより現在の送迎利用者の傾向を分析した。

**◎平均年齢：74.5 歳**　　**◎最も多い年齢層（5 歳刻み）：81～85 歳（26%）**




◆ 利用者の復興住宅への引っ越しが相次ぎ、送迎先に復興住宅の増加とプレハブ仮設団地の減少が顕著な一年であった。一方で、完成までに時間のかかる仮設住宅は今後さらに数年がかかるとされており、置かれる環境が利用者によって大きく異なる状況に拍車がかかっている。

◆ 復興住宅に入居した利用者の孤立が新たな問題として見られるようになってきた。

「隣に誰が住んでいるかわからない」「復興住宅に住んでからどこにも出かけなくなった」「毎日夕方になると涙が止まらなくなる」等、スタッフに話す言葉には重要な課題を含むものも多い。復興住宅入居直後に体調を崩した方や施設に入所することになった方なども見られる。

◆ 人工透析の送迎依頼が変わらず相次ぎ、深刻な相談も多い一方で、受け入れ限界を越えて送迎できないケースも多く、双方にとって非常にストレスフルな状況となっている。

◆ 2017 年 4 月より、女川町民の透析患者が当団体による送迎（NPO による無償送迎）での通院に町発行のタクシー券を使えるようになるという、宮城県内での画期的・先駆的な事例となる制度が始まるため、女川町職員や町議会議員が当団体を訪問し、聞き取りを行った。

（2017 年 6 月現在、順調に実行中）

◆ 送迎利用者のお出かけの機会を増やすために、付き添いつきお出かけ送迎を実施した。

計４回の実施：　2016 年９月（お墓参りと掃除）参加者４名、12 月（買い物）参加者３名、
2017 年２月（日帰り温泉）参加者３名、３月（お墓参りと掃除）参加者９名

・試験的に開始してから、回数を重ねるごとに少しずつ慣れてきて、利用者にも浸透してきた。
・参加者は最初の 3 回は少なかったが、非常に満足度が高く喜ばれた。同じ利用者が次にも頼むようになってきた。
・2017 年度は月 1 回の開催を基本としてお出かけ送迎を充実させていく方向である。

《Ｉの事業に要した費用》……11,020 千円

## Ⅱ．　福祉有償運送事業

2016 年度は送迎をこれまで通りの道路運送法上「無償の範囲内」とされる実費以下の利用者負担による送迎として行ったため、福祉有償運送事業を行わなかった。

## Ⅲ．　情報収集・調査・情報発信事業

### Ⅲ-1【福祉送迎講習会】

地域に移動支援の担い手を増やし、安全に送迎できる地域住民を育成することを目的とし、福祉車両等を使用した移動困難者の送迎を総合的に学ぶ講習会を実施した。

1．活動概要

◆　2014 年度より毎年開催。福祉車両の操作、運転技術講習、移乗・介助、心構えや接遇等、福祉送迎をおこなうにあたり必要な知識や技術を学ぶ講習会。
◆　全国および宮城県内で国土交通大臣の認定運転協力者講習を開催している講師を依頼した。
当団体のスタッフは講師補助として技術提供や進行役などを担うほか、自らも受講生として意識や技術の向上に努めた。

◆　新たな形態として年 3 回のシリーズ開催とした。国土交通大臣認定の科目をすべて含め、独自の講義科目と合わせた講習プログラムを用意した。
全科目を受講した者には国土交通大臣認定の運転協力者講習修了証を発行（発行者：NPO 法人移動サービスネットワークみやぎ）。1 回のみの受講も可能。

## 2. 講習内容

◆　第 1 回講習会

【日時】　2016 年 12 月 17 日（土）　10：00～16：30

【場所】　石巻専修大学

【講義内容】　①研修の目的　②利用者心理と接遇　③当事者の思い
④車いす操作とガイドヘルプ　⑤介助者の心構えとマナー

【講師】　関西 STS 連絡会：柿久保浩次氏、移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏、
にょっきり団：阿部俊介氏、石森祐介氏

【参加人数】　一般　22 名　　移動支援 Rera　5 名

【講習の様子】

石巻圏域のみならず、遠くは福島県等からも、福祉施設の職員、送迎運転手、一般市民、社協職員、復興支援 NPO スタッフ等、多様な立場の受講者が集まった。送迎に従事する者の心構えを学び、「当事者の目線に立つ」ことをテーマとして、視覚障害者、車いす利用者等の立場を体験した。車座になって石巻地域に暮らす障害当事者の体験などを共有する時間も印象に残った。

【アンケートより】20 枚回収（Rera 関係者除く）

（座学）　大変良かった：12　良かった：7　普通：1　（それ以下なし）※以下同じ
（実技）　大変良かった：11　良かった：8　普通：1
（座談会）　大変良かった：11　良かった：6　普通：3
（全体）　大変良かった：13　良かった：6　普通：1

◇他人を乗せているという心構えを理解できた。　◇介護者として基本的な姿勢を改めて学ぶことができた。　◇当事者と介助者の両方を体験することで不安感を抱かせない心構えについ

て。　◇当事者の思いもそうですが参加者のみなさんの思いを知れたのが良かった。　◇座学も実技も有意義だった。　◇　移動サービスの基本的な考え方が少しわかってきた。

◆　第 2 回講習会

【日時】　2017 年 1 月 28 日（土）　10：00～16：30

【場所】　石巻専修大学

【講義内容】　①宮城県・茨城県の移動サービス　②リスクマネジメント　③車いす介助　④移乗介助　⑤介助者のメンタルケア

【講師】　MPO 法人活きる：宮脇貞夫氏、移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏、みらいサポート石巻：中川政治氏

【参加人数】　一般　23 名　　移動支援 Rera　8 名

【講習の様子】

大半が第 1 回受講者の継続受講となった。リスクマネジメントはワークショップ形式で行い、グループごとにリスクを洗い出し共有した。第 2 回は「介助者の視点」に焦点を当て、介助者に負担のかからない移乗や介助の実技実習、在宅で介護を行う宮脇氏の体験やメッセージを聞くなどの時間を持った。

【アンケートより】21 枚回収（Rera 関係者除く）

（座学）　大変良かった：9　良かった：10　普通：1　（それ以下なし）※以下同じ

（実技）　大変良かった：10　良かった：8　普通：1

（全体）　大変良かった：11　良かった：8　普通：1

◇自分では想像できないリスクがたくさんある事がわかった。　◇在宅介護のお話に感動した。　◇様々な場面での介助方法を学ぶことが出来た。　◇移動介助の実技は非常にためになった。　◇技術だけでなく寄り添い方や介助を受ける方の立場の視点も学ぶことが出来た。　◇外がとてつもなく寒かった。　◇やわらかな雰囲気で学びやすい講習だった。

◆　第３回講習会

【日時】　2017 年２月５日（日）　10：00～16：30

【場所】　石巻専修大学、大学周辺の路上実習

【講義内容】　①交通法の基礎　②福祉車両について　③運転実技

④車いす介助　他　⑤利用者の理解　⑥総論「学びを暮らしと地域に活かす」

【講師】　ホップ障害者地域生活支援センター：竹田保氏、齊藤光弘氏、田島充氏、番場弘匡氏

移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏

【参加人数】　一般　25 名　移動支援 Rera　７名

【講習の様子】

３回すべて受講する者も多かった。制度の仕組みや利用者理解等について、支援団体の代表であり車いす当事者でもある竹田氏より学び、齊藤氏による送迎や車両についての座学の後、路上での運転実技を全員が順番に行った。セダン車両への移乗、車いすの階段介助等も体験した。使用車いすが不足してしまったことが反省点。

【アンケートより】20 枚回収（Rera 関係者除く）

（座学）　大変良かった：9　良かった：7　普通：4　（それ以下なし）※以下同じ

（実技）　大変良かった：11　良かった：4　普通：4

（全体）　大変良かった：11　良かった：6　普通：3

◇法制度が何故出来たのか、社会情勢による解釈の変化がよくわかった。　◇障害のことを理解するではなく、その人の事を理解する。　◇自分の運転のくせが分かった。　◇人を乗せて車を運転するのに必要以上に注意が必要。　◇セダン車の移乗介助が参考になった。　◇利用者の事を第一に考えていくことを再確認した。　◇良い雰囲気の中で学びの多い講習となった。

## Ⅲ-2【持続可能な『暮らしの足』を考えるフォーラムの開催】

岩手・宮城・福島の被災 3 県において、地域住民の暮らしと移動の重要性を共有し、まちづくりや

福祉など様々な視点で課題解決に取り組むためのフォーラムを開催した。

## 1. 活動概要

- ◆ 岩手、宮城、福島において、地域の交通と移動の課題を考え、関係者のつながりを作るイベントを各県一回ずつ行った。
- ◆ テーマは「移動の全体感の把握」、「事例を知ることによる学び」、「参加者間の交流」の 3 要素。
- ◆ 地域ごとの現状に合わせ、岩手、宮城、福島のキーパーソンとプログラムを決定。各県の現状に即し、地域での取り組み事例の紹介、「暮らしの足」をテーマとした基調講演、参加者による意見交換やワークショップを行った。
- ◆ フォーラムごとの実行委員会を設けて実施した。実行委員は各県の連携復興センター、移動サービスのネットワーク団体、学識者等が構成要員となり、復興庁、全国移動サービスネットワーク等の全国組織の後援で行われた。

## 2. 開催内容

◆ **持続可能な「暮らしの足」を考えるフォーラム in 岩手**

【日時】　2017 年 2 月 12 日（日）　13：00～16：30

【場所】　岩手県北上市

【プログラム】

①ミニ講演「公共交通と福祉のはざまの問題整理」

　講師：いわて地域づくり支援センター　若菜千穂氏

②リレートーク「生活者の目線からの活動」

- ・岩手県豊岡町自治振興会
- ・NPO 法人くちない
- ・遠野市社会福祉協議会

③リレートーク「政策目線からの活動」

- ・一関市まちづくり推進課
- ・山田町

④クロージング・トーク

【実行委員会】いわて地域づくり支援センター／いわて連携復興センター／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／地域社会デザイン・ラボ／ジャパン・プラットフォーム／移動支援 Rera

【岩手フォーラム概要】

移動の問題は地域生活の問題であるという視点で、岩手県内では民間と行政が行う小さな取り組みが生れつつある。

各地からの実践例の発表を前に、若菜さんから「公共交通と福祉のはざまの問題整理」という題で、現状の法制度の確認を含めた課題整理をテーマに講演をして頂いた。

それを受け、リレートークの第 1 部は、自治会・NPO・福祉の 3 分野から日頃の実践を紹介して頂き、続く第 2 部で、一関市からは交通行政での取り組み、山田町からは福祉行政視点からの取り組みという行政からの実践報告を頂いた。

同じ県内でも各地の情報や課題を共有することがなかなか難しかった岩手県であったが、これを期に横のつながりの重要性を確認することが出来たフォーラムとなった。

◆　**持続可能な「暮らしの足」を考えるフォーラム in 宮城**

【日時】　2017 年 2 月 19 日（日）　13：30～17：30

【場所】　宮城県仙台市

【プログラム】

①論点整理「“暮らしの足”確保のための論点整理」

移動サービスネットワークみやぎ　坂井正義氏

②取り組み紹介

・ささえ合い山元

・美里町ボランティア山の神

・大崎市まちづくり推進課

・フタバタクシー

③基調講演「交通と福祉、営利と非営利を越えて共に築く移動の未来図」

宮城大学事業構想学部　徳永幸之氏

④パネルトーク＆ワークショップ

【実行委員会】移動サービスネットワークみやぎ／宮城大学／みやぎ連携復興センター／

東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／ジャパン・プラットフォーム／移動支援 Rera

【宮城フォーラム概要】

宮城大学徳永幸之教授の講演タイトル「交通と福祉、営利と非営利を越えて共に築く移動の未来図」がまさにテーマであり、多様な担い手がそれぞれ「できること」について考えを寄せ合うフォーラムだった。

課題整理として坂井正義氏による住民目線の移動や制度等について提示いただいた後、交通政策として、あるいは交通事業者や住民組織として、それぞれの立ち位置から地域の「暮らしの足」を支えるための取り組みを行ってきた県内の事例を共有した。

徳永教授からは、交通弱者の定義や公共交通の考え方などの固定化した概念について一石を投じるご意見や改善に向けたヒントをいただいた。

最後に時間をかけて参加者同士の意見交換を行い、自分ごととして今後取り組みたいことや課題について意見を出し合った。

◆　**「暮らしの足」を考えるフォーラム in 福島**

【日時】　2017 年 3 月 5 日（日）　13：30〜17：30

【場所】　福島県郡山市

【プログラム】

①論点整理〜ふくしまの抱える二つの課題〜

　福島県移動サービスネットワーク　大山重敏氏

②取り組み紹介

・NPO 法人あさがお

・株式会社運喜（スーパーファンズ）

・福島県相双復興官民合同チーム

・会津若松市地域づくり課

③基調講演『地域の「暮らしの足」と「おでかけ」を守り育てる総力戦のススメ」

　福島大学経済経営学類　吉田樹氏

④パネルトーク＆ワークショップ

【実行委員会】福島大学経済経営学類吉田ゼミ／福島県移動サービスネットワーク／日本福祉のまちづくり学会・地域福祉交通特別研究委員会／ふくしま連携復興センター／東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）／ジャパン・プラットフォーム／移動支援 Rera

【福島フォーラム概要】

福島県は原発事故による影響を全体に受けつつも、従来からの地域課題を抱えている。論点整理では大山重敏氏がそういった福島の課題を整理し、市民の主体意識がくらしの足確保の鍵となることを伝えた。取り組み紹介では NPO の助け合い送迎、スーパーの買い物弱者支援、官民連携チームの帰還支援、住民主体の公共交通計画についての事例を伺った。

福島大学吉田樹准教授による基調講演では、人口減少と高齢化の進む地域で「暮らしの足」を確保するためには、事業者・行政・NPO・住民が“垣根”を越えて取り組む「総力戦」が不可欠であるという指摘があった。パネルトークでは住民主体の支援を行うためのポイントを出し合い、「理想を叶えるためには現実的な視点ももっと必要ではないか」等、活発な意見交換が行われた。

## Ⅲ-3【交通案内ウェブページ更新】

◆ 青森県八戸市の青い森ウェブ工房に委託し、検索内容の充実と、データ更新、スマートフォン対応などのデザイン変更等を行った。

http://ishinomaki.buste.in/

◆　石巻交通検索ウェブページ　概要

・石巻地域の路線バス、住民バス、高速バス等の路線、時刻、バス停情報等を検索できる。

・「バス停名から」「住所や目印から」「地図から」「路線名から」等で検索可能。

・「出発地」「目的地」を入力すると、両バス停を通過するバスの時刻を表示できる。

◆　2016 年度はデザイン変更の後、一般向けモニター調査を行い、改善を進める予定だったが、デザイン変更が年度末近くなったためモニター調査は次年度に持ち越し。

◆　路線再編等により路線や時刻に変更があった際に速やかに対応できていない点が課題。市役所などと情報共有の連携をする必要がある。

《Ⅲの事業に要した費用》……2,201 千円

# Ⅳ.　住民同士の交流・親睦事業

2016 年度は事業を行わなかった。

# Ⅴ.　その他の事業

## Ⅴ-1【外部協力者と連携した組織基盤強化】

### 1. 活動概要

◆　前年度より開始した、組織づくりの専門家をアドバイザーとして組織力の向上のための研修等に取り組む事業を継続実施した。アドバイザーには地域社会デザイン・ラボの遠藤智栄氏に前年度より引き続いて依頼した。

◆　組織基盤強化の方法としては、前年度の形態を引き継ぎ、月に一度スタッフ全員参加の研修会を開催した。研修会が現場スタッフの活動に溶けこみ、活動や人との関わり等を考える有効な場として機能しているためである。

◆　研修は、送迎等の日常業務を終日休んでスタッフ全員が参加する。意識の切り替えのため当法人事務所ではない場所を会場とした。

◆　プログラムは、『レラメイト』などの新しい事業についての意見交換や実施のシミュレーション、ボランティア募集や寄付金集めの学習や役割分担、制度の勉強、活動の振り返りや今後の計画等、組織運営や円滑な事業遂行に必要な議題を事務局とアドバイザーで協議し実行した。

◆　研修の最終回でスタッフの感想や継続への意向を確認したところ、「組織運営のために意味のある研修だった」「今後も継続した方が良い」という意見で一致した。

## 2. 実施日程

| | | |
|---|---|---|
| 8 月 9 日 | 第 1 回 | 『キックオフ、ボランティアコーディネート』等 |
| 9 月 13 日 | 第 2 回 | 『レラメイトのアイディア出し、行動指針活用』等 |
| 10 月 9～10 日 | 第 3 回 | 『お出かけ企画、ボランティアマネジメント、寄付を考える』<br>『美里町ボランティア山の神活動の事例学習』等 |
| 11 月 9 日 | 第 4 回 | 『朝ミーティング改善、ボランティア募集、下半期事業計画』等 |
| 12 月 7 日 | 第 5 回 | 『レラメイト検討、寄付キャンペーン、講習会準備』等 |
| 1 月 19 日 | 第 6 回 | 『ボランティア募集、寄付キャンペーン、レラメイト意見交換』等 |
| 2 月 10 日 | 第 7 回 | 『レラメイトおでかけ企画、次年度計画確認』等<br>『暮らしと移動の情報交換会』（福祉、まちづくり関係者との交流） |
| 3 月 13 日 | 第 8 回 | 『ファシリテーション、レラメイト計画、今年度の振り返り』等 |

《Ｖの事業に要した費用》……754 千円

## Ⅵ.　運営に関する報告

### 移動支援 Rera 会員数

| | | |
|---|---|---|
| 正会員 | 18 名 | （前年より 2 名増） |
| 賛助会員 | 65 名 | （前年より 15 名増） |

### 寄附・寄贈

- ◆ 2016 年度受取寄附金　8,921,134 円　（前年比　△107,215 円）
- ◆ 2016 年度　寄附件数　301 件　（前年比　+144 件）

以上